

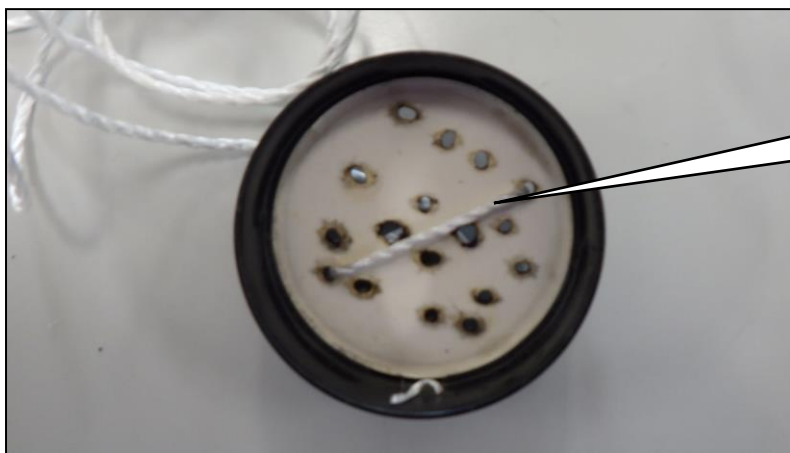
「ウミホタル観察」研修

【仕掛けについて】

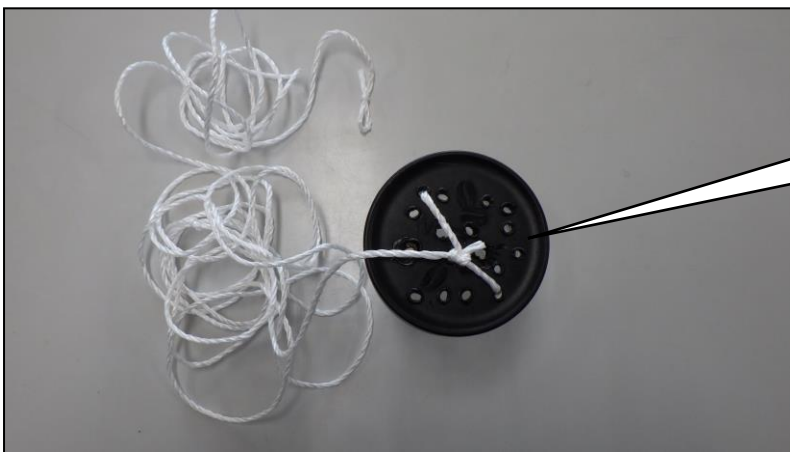


仕掛け作成に必要な物

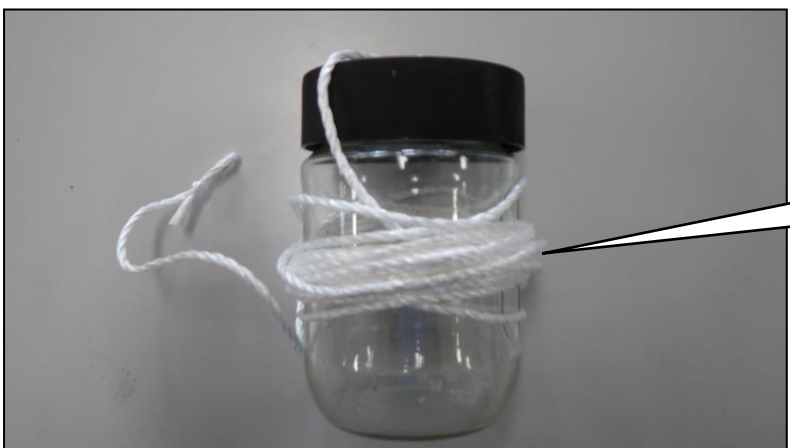
- ・ 広口ガラスビン
- ※ 蓋は目打ち針で穴を複数開ける。
- ・ ロープ 15m



目打ちした蓋に紐を通す。  
(裏から見たもの)



目打ちした蓋に紐を通し結ぶ。  
(表から見たもの)



蓋を絞めて完成です。

「ウミホタル観察」研修

# ウミホタル観察



国立江田島青少年交流の家

## 「ウミホタル観察」研修

### ◆ 概要

海の環境バロメータともいえるウミホタルを実際に採取し、神秘的な光を放つウミホタルを観察する。

### ◆ ねらい

ウミホタルの採取、観察を通して、自然や環境に対する興味・関心を育てる。

### ◆ 指導者、人数など

対象	小学生以上 (保護者や引率者と組む場合は可)
指導	各団体
人数	最大100人まで
実施時間	1時間30分
実施場所	水泳場
実施時期	5～11月



採集セット

### ◆ 準備物

個人	団体（グループ数）	交流の家
運動靴	しかけ用びん	携帯用救急バッグ
タオル	エサ（魚のあら、するめなど）	救急法の基礎知識
飲み物	ロープ15m	ハンドマイク
懐中電灯	バケツ	ライフジャケット(荒代栈橋時)
引率者	水網	
携帯電話		

### ◆ 展開

	団体指導者・研修生の動き	職員の動き
実施前	必要物品を受け取る。	準備物の貸し出し
事前指導	①海洋研修館前にグループ毎に整列する。 ②健康観察を行う。 ③人数を確認し、事務室に研修開始の報告をする。 ④注意事項などを説明する。 ・一般道も通るので右側を2列で歩く。（道路以外は通らない。） ・途中、外灯がないので足元に気をつける。 （特に側溝に落ちないように） ・水泳場では海の中に入らない。 ・岩場には付着した貝が多くケガをしやすいので近づかない。 ・グループ単位で行動し、勝手な行動をしない。	なし
移動	指導担当者が先頭、最後尾には安全確認担当者がつき、グループ毎に2列縦隊で水泳場に移動。	なし



「ウミホタル観察」研修

<p>観察</p>	<p>①エサをびんの中に入れ、ふたをしっかりと閉める。                  ②ロープの端をしっかりと持ち、周りの安全を確かめ、砂浜からびんを投げ海底へ沈める。                  ③15分～30分後（長くおいておくと、たくさんとれる。）にびんをゆっくり引き上げる。                  *30分以上はびんを沈めない。                  ④びんの中のウミホタルを観察する。                  ⑤びんのふたをとり、ウミホタルのいる海水をすべて水網にうつす。（バケツを用意）                  *ウミホタルが発光するので懐中電灯は必ず消す。                  ⑥観察後、ウミホタルを海に返す。                  ⑦物品の後片付けをする。</p>	<p>なし</p>
<p>観察後</p>	<p>①浜辺にグループ毎に整列する。                  ②人数を確認する。                  ③健康観察をする。                  ④指導担当者が先頭、最後尾には安全確認担当者がつき、グループ毎に2列縦隊で海洋研修館前に引率する。                  ⑤帰着（海洋研修館前）                  ・就寝までの諸連絡を行い、解散する。                  ・借用物品を交流の家（事務室）に返却するとともに、研修が終わったことを報告する。</p>	<p>貸し出し物品の数量を確認する。</p>

◆ 連絡先

	一般電話番号	緊急通報用電話番号
江田島消防署（救急係）	TEL 0823-40-0358	119
江田島警察署	TEL 0823-42-0110	110
第六管区海上保安本部	TEL 082-251-5111	118
国立江田島青少年交流の家	TEL 0823-42-0663（夜間対応番号）	